

## マーケット概況（2021年2月）

2月の債券相場は、前月末に発表された日銀の国債買入予定で中期債の減額が示唆されたため、やや売り先行で始まったが、2日の10年債入札、4日の30年債入札は順調に通過した。しかし、米国の景気回復への期待感を背景に、米国債金利が上昇したことを受け、債券先物3月限は9日まで、2003年11月以来となる10日続落を記録した。日銀が3月に結果を公表する政策点検においてマイナス金利の深掘り余地を検討している旨の一部報道を受け、12日には中期債を中心に買われる場面もあったが、その後も日米ともに株高債券安の流れは変わらなかった。15日に日経平均株価が1990年8月以来となる3万円台に到達すると、19日には10年361回債の利回りは2018年11月以来となる0.100%まで上昇した。その後、22日の超長期債を対象とした買入オペの結果が低調となったこともあり、ベアスティーピングが進行していく中で、米国10年債が1.6%台まで売られると、26日には債券先物3月限が2018年10月以来の150円38銭まで下落した。現物債は5年146回債が-0.030%、10年債361回債が0.175%とそれぞれ2016年1月以来の水準まで上昇し、20・30・40年債の各カレント銘柄も直近安値を更新した。同日に行われた2年債入札の結果が好調であったことや、3月の国債買入予定額が据え置きとなったことから値を戻したものの、結局10年361回債の利回りは0.150%で月内の取引を終えた。

### <短国市場>

3M金利は-0.09%~-0.10%台中心に推移し、月末には-0.110%に低下した。5日の3M970回債入札は最高落札利回りが-0.0912%と前回債から低下してスタートした。12日の3M972回債入札・19日の974回債入札も-0.09%台で小幅の低下が続き、セカンダリー市場では概ね-0.10%台で推移した。26日の3M976回債入札は-0.1023%まで低下し、セカンダリー市場では最終的に-0.110%で取引を終えた。6M・1Yゾーンは、店頭需要や国庫短期証券買入オペに支えられて堅調な地合いとなり、月後半にかけて金利が低下した。最終的に6M975回債は-0.120%、1Y973回債は-0.135%で月内の取引を終えた。

### <一般債市場>

10年政保債の спреッドは国債カーブ+5.0bpと前回（12月）債と同水準を維持した。一方、10年地方債は同+8.0bpと前月比1.0bp縮小し、2015年4月以来の低水準となった。政保債、地方債ともにスプレッドが流通実勢並みだったことやクーポン水準が前回債より上昇したことを受け順調に消化された。既発債は良好な需給が継続し、スプレッドに大きな変動は見られなかった。社債の発行額は、月前半に事業会社や損害保険会社の大型発行が集中し、月間で7,863億円と同月としては2015年以来6年ぶりの高水準となった。今年度起債が増加しているSDGs債では、日本ハム、野村不動産ホールディングスが発行体として初のサステナビリティボンドを起債した。

### ◎ 主要債券月間四本値 ◎

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#361	0.055(1日)	0.050(2日)	0.175(26日)	0.150(26日)
#360	0.045(1日)	0.040(1日)	0.165(26日)	0.140(26日)
#350	-0.070(3日)	-0.070(3日)	0.045(26日)	0.035(26日)
#146(5Y)	-0.110(1日)	-0.115(4日)	-0.030(26日)	-0.055(26日)
#175(20Y)	0.460(1日)	0.445(5日)	0.575(26日)	0.550(26日)
#967-#975TDB(6M)	-0.102(9日)	-0.120(15日)	-0.101(9日)	-0.120(24日)
#969-#976TDB(3M)	-0.097(5日)	-0.110(26日)	-0.096(5日)	-0.110(26日)